

寝具の着心地に関する調査研究 (第2報)

酒井清子

Investigation on Comfort of Bedding (II)

KIYOKO SAKAI

緒 言

消費者が衣料用繊維製品に対して、要求する性能のうちで着心地は重要な項目の一つである。着心地は主に身体の動きに適応するか、否かによって評価される面が多いが、寝具の場合はその様相がかなり異なっているものと思われる。すなわち、寝具は一日の疲れをいやし、明日への活力を養う睡眠、休養のために使用するものであり、着用者が心身の解放感、安定感、また安眠可能な寝心地の良いものでなければならない。

寝具の着心地条件は、主に入床してから寝つくまでの間、あるいは目ざめた時に得た感覚などの良否によって評価される事が多い。その着心地の内容は、心理的、物理的、生理衛生的性能、その他諸性質が複合介在しあったものと考えられる。

寝具の着心地調査をするに当り、まず着心地内容を既成概念にとらわれず、実態に即応したものにするために、前回中部地区における、寝具の着心地に関する調査研究を成人男女・女子学生について調査した方法を基にして、今回は寝具の着心地に要求される条件内容を、22項目設定し前回同様各種寝具における各項目の要求度調査を、夏期における女子学生を対象に行ったので報告する。

調 査 方 法

1. 調査対象と調査時期

本学院家政学部ならびに短期大学の学生を、無作為に選び230名を対象とした。学生の地域別分布状況は次の様である。

愛知県 31% 名古屋市 31% 岐阜県 15% 三重県 16% その他 7% (福井県, 静岡県, 長野県, 岡山県) である。

対象学生に調査用紙を配布し、質問形式で調査を行ったので回収率は100%である。

調査時期は、昭和55年7月～8月である。

2. 調査対象寝具

夏用掛けぶとん、夏用敷ぶとん、マットレス、タオルケット、シーツ・包布、夏用ねまき、枕、以上7品目を選定した。

3. 調査項目

1) 就寝様式

たたみの上にふとんを敷くたたみ様式、またベッド様式について調査した。

2) 調査内容

調査内容は次のようである。(○内の数字は調査用紙の項目番号を示す)。

① ファットしている。② 冷たい(涼しい)感じ。③ 色柄が良い。④ 縫製・仕立が良い。⑤ 毛玉ができない・ほつれない。⑥ やわらかくしげきしない。⑦ 清潔そうに見える。⑧ サラットしている。⑨ デザインが良い。⑩ 寸法(サイズ)が良く合う。⑪ ほこりができない。⑫ にげない・すべらない。⑬ よごれにくい。⑭ 肌ざわりが良い。⑮ 色があせない・変色しない。⑯ しわがよりにくい。⑰ 軽い。⑱ 肩がこらない。⑲ 室内との調和が良い。⑳ 適当な弾力性をかたさがある。㉑ 適当に重い。㉒ カラットかわいている(むれない)。

各寝具に対して、調査対象者が着心地の良いと感ずるための条件として上記の22項目を提示し調査項目とした。なお各寝具ごとに要求される条件22項目を、〔A群〕、〔B群〕、〔C群〕、〔D群〕に分け群別に3位まで選び順位をつけさせた。

〔A群〕、心理的性質、(7項目)①、②、③、⑦、⑧、⑭、⑲。

〔B群〕、サイズ・縫製・形、(3項目)④、⑨、⑩。

〔C群〕、物理・化学的性質、(8項目)⑤、⑥、⑫、⑮、⑯、⑱、㉑、㉒。

〔D群〕、生理・衛生的性質、(4項目)⑪、⑬、⑰、㉑。

3) 寸法・素材

対象寝具7品目について、学生が使用している寝具を種類別に、寸法について調査した。

対象寝具の表地の素材、中味の材料について、学生が使用している寝具について調査した。

4) 着装感

夏用ねまきの着心地、着装感の検討をした。

調査結果ならびに考察

上記による調査結果、寝具の就寝様式、種類別の着心地の要求度、表地の素材、中味の材料ねまきの着心地については次の通りである。

1. 就寝様式について

前回、寝具の着心地に関する調査研究において、学生の就寝様式を調査した結果、圧倒的にたたみの上にふとんを敷く、たたみ様式が大多数を示していた。その結果は、たたみ様式72%、ベッド様式28%、であったが、今回の調査結果ではベッド様式60%、たたみ様式40%と前回の調査結果の反対傾向であった。

これは住宅事情が大変改良され、生活様式が変化した結果、またベッドの普及によるものではないかと推察する。

2. 群別要求度について

調査項目、〔A群〕、〔B群〕、〔C群〕、〔D群〕以上4群に分類し、各群における項目要求度の総和をもって群別要求度とし、着心地における要求傾向を検討した。検討をするに当たり1項目を選ぶより3項目を選んだ方が傾向を把握するのに好ましいと思い、1位～3位まで順位をつけさせたがその結果は、1位、2位、3位の順位に余り良い結果は得られず着心地における変化はなく、わずかの差であった。

表1は、各種寝具における22項目を群別にまとめた要求度順位表である。

1) 夏用掛けふとんについて

要求度に顕著な差異は見られず、いずれも余り変化がない。わずかにC群の物理・化学的性質の要求度が高く、次いでA群の心理的性質、D群の生理・衛生的性質が要求され、B群のサ

表1 各種寝具の群別要求度

種類 順位	夏用掛けぶとん (%)			夏用敷ぶとん (%)			マットレス (%)			タオルケット (%)			シーツ・包布 (%)			夏用ねまき (%)			枕 (%)		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
A	8.67	8.67	8.3	9.0	8.0	9.3	8.3	8.0	8.0	11.39	8.67	8.67	8.67	8.67	8.0	9.3	9.0	8.46	8.67	8.3	8.0
B	8.0	7.67	7.3	8.3	8.3	8.0	8.67	8.3	8.0	8.3	8.0	8.0	8.3	8.0	8.0	8.67	8.3	8.0	8.67	8.3	8.0
C	9.0	8.75	8.67	9.0	8.83	8.67	8.75	8.67	8.67	8.67	8.3	8.3	9.12	8.67	8.3	8.3	8.0	7.67	9.06	9.0	8.0
D	8.67	8.3	8.0	8.3	8.0	7.3	8.67	8.3	8.3	8.3	8.0	8.0	8.3	8.3	7.67	8.3	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0

イズ・縫製・形に対する要求は非常に低い。

夏用掛けぶとんの着心地に対する評価は、物理的、化学的、心理的性質の満足度を要求する傾向が強い。

2) 夏用敷ぶとんについて

夏用掛けぶとんと同傾向を示している。C群の物理・化学的性質の要求度が高く、次いでA・B・D群の順である。

3) マットレスについて

夏用掛けぶとん、夏用敷ぶとんと同傾向を示し、C群の物理・化学的性質の要求度が高く、次いでB・D・A群の順であるが、余り差はない。

4) タオルケットについて

A群の心理的性質の要求度が高く、次いでC・B群の順で、D群は非常に低い傾向を示している。

5) シーツ・包布について

C群の物理・化学的性質の要求度が、わずかに高く、次いでA群の心理的性質、B・D群の順である。

6) 夏用ねまきについて

A群の心理的性質の要求度が高く、B群のサイズ・縫製・形を好み、D群の生理・衛生的性質の順で、C群の物理・化学的性質は低い傾向を示している。

7) 枕について

C群の物理・化学的性質の要求度が高く、次いでA・B群の順でD群の生理・衛生的性質は低い傾向を示している。

以上寝具の着心地に関しては、各調査対象ともに群別要求度に大差はなく、わずかに要求度順位に変化が見られたのみであった。

3. 寝具の寸法について

各種寝具の、夏用掛けぶとん、夏用敷ぶとん、マットレス、タオルケット、シーツ・包布、夏用ねまき、枕の種類別寸法について、学生が使用している寝具の調査した結果は、寝具の寸法(1)、表2-1、寝具の寸法(2)、表2-2、寝具の寸法(3)、表2-3に示す。

夏用掛けぶとん、夏用敷ぶとん、マットレス、タオルケット、シーツ・包布の別に、幅、長さの寸法を表2-1、高さの寸法は表2-2に示す。

1) 夏用掛けぶとんについて

幅……140～149 cmの使用者が27.1%で優位を示し、次いで130～139 cmの使用者が25%で、最多使用者の寸法は140 cmである。

表2-1 寝具の寸法(1)

形	寸法	種類	夏用掛けぶとん	夏用敷ぶとん	マットレス	タオルケット	シーツ・包布
			(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
幅	89以内(cm)		1.0	1.4	9.3	1.1	0
	90~99		2.6	34.6	56.5	1.6	10.7
	100~109		6.8	46.7	17.2	4.3	22.8
	110~119		14.1	2.8	1.5	17.7	8.2
	120~129		16.1	4.7	10.7	31.2	14.6
	130~139		25.0	5.6	0	23.1	13.6
	140~149		27.1	1.4	2.2	16.7	14.6
	150以上		7.3	2.8	2.6	4.3	15.5
長さ	149以内		9.0	0	1.5	7.1	1.0
	150~159		8.5	0.5	0	11.4	0
	160~169		6.8	2.3	0	17.4	1.4
	170~179		19.8	9.8	5.9	13.1	4.3
	180~189		29.9	34.9	23.5	25.0	16.9
	190~199		16.9	36.3	50.0	19.0	16.4
	200~209		6.8	11.6	16.2	4.3	21.8
	210以上		2.3	4.6	2.9	2.7	38.2

表2-2 寝具の寸法(2)

形	寸法	種類	夏用掛けぶとん	夏用敷ぶとん	マットレス	タオルケット	シーツ・包布
		(cm)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
高さ	0.9以内		2.2	0.5			
	1.0~0.9		14.1	3.0			
	2.0~2.9		22.3	3.0			
	3.0~3.9		33.2	7.5			
	4.0~4.9		7.6	15.1			
	5.0~5.9		16.3	35.2			
	6.0~6.9		0.5	10.1			
	7.0~7.9		0	3.0			
	8.0以上		3.8	16.6			
	4以内				16.2		
	5~9				28.2		
	10~14				14.8		
	15~19				31.7		
	20~24				5.6		
	25~29				0.7		
	30以上				2.8		
	0.4以内					34.5	84.7
	0.5~0.9					31.8	8.2
	1.0~1.4					22.7	4.7
1.5以上					11.0	2.4	

長さ……180～189 cm の使用者が29.9%で優位を示し、次いで170～179 cm の使用者が19.8%で、最多使用者の寸法は180 cm である。

高さ……3.0～3.9 cm の使用者が33.2%で優位を示し、次いで2.0～2.9 cm の使用者が22.3%、5.0～5.9 cm の使用者が16.3%の順で、最多使用者の寸法は3 cm である。

2) 夏用敷ぶとんについて

幅……100～109 cm の使用者が46.7%で優位を示し、次いで90～99 cm の使用者が34.6%で、最多使用者の寸法は100 cm である。

長さ……190～199 cm の使用者が36.3%で優位を示し、次いで180～189 cm の使用者が34.9%、200～209 cm の使用者が11.6%の順で、最多使用者の寸法は180 cm である。

高さ……5.0～5.9 cm の使用者が35.2%で優位を示し、次いで4.0～4.9 cm の使用者が15.1%、6.0～6.9 cm の使用者が10.1%の順で、最多使用者の寸法は5 cm である。

3) マットレスについて

幅……90～99 cm の使用者が56.5%で約半数の者が優位を示し、次いで100～109 cm の使用者が17.2%、120～129 cm の使用者が10.7%の順で、最多使用者の寸法は90 cm である。

長さ……190～199 cm の使用者が50%と半数が優位を示し、次いで180～189 cm の使用者が23.5%、200～209 cm の使用者が16.2%の順で、最多使用者の寸法は190 cm である。

高さ……15～19 cm の使用者が31.7%で優位を示し、次いで5～9 cm の使用者が28.2%、10～14 cm の使用者が14.8%の順で、最多使用者の寸法は15 cm である。

4) タオルケットについて

幅……120～129 cm の使用者が31.2%で優位を示し、次いで130～139 cm の使用者が23.1%、110～119 cm の使用者が17.7%の順で、最多使用者の寸法は130 cm である。

長さ……180～189 cm の使用者が25%で優位を示し、次いで190～199 cm の使用者が19%、160～169 cm の使用者が17.4%の順で、最多使用者の寸法は180 cm である。

高さ……余り差がない。0.4 cm 以内の使用者が34.5%で優位を示し、次いで0.5～0.9 cm の使用者が31.8%、1.0～1.4 cm の使用者が22.7%の順である。

5) シーツ・包布について

幅……100～109 cm の使用者が22.8%で優位を示し、次いで150 cm 以上の使用者が15.5%、120～129 cm、140～149 cm の使用者が14.6%の順で、最多使用者の寸法は100 cm である。

長さ……210 cm 以上の使用者が38.2%で優位を示し、次いで200～209 cm の使用者が21.8%、180～189 cm の使用者が19.9%、190～199 cm の使用者が16.4%の順で、最多使用者の寸法は185 cm である。

高さ……タオルケット同様、高さの差は余り見られず、0.4 cm 以内の使用者が84.7%と多数を示している。

6) 枕について

枕の幅、長さ、高さの寸法を、寝具の寸法(3)、表2-3に示す様に。

幅……35～44 cm の使用者が22.2%で優位を示し、次いで30～34 cm の使用者が16.6%、60 cm 以上の使用者が13.9%の順で、最多使用者の寸法は35 cm である。

長さ……50～59 cm の使用者が29.6%で優位を示し、次いで60～69 cm の使用者が26.4%、40～49 cm の使用者が25.5%の順で、最多使用者の寸法は60 cm である。

高さ……10～14 cm の使用者が45.0%で優位を示し、次いで5～9 cm の使用者が37.6%で、最多使用者の寸法は10 cm である。

枕があまり高いと、安眠をさまたげ、体型におよぼす影響も悪い点から調査の結果は、少し高い様に思われるが、枕を使用する場合、頭部のしずみ分をも考えると、今回の調査結果は、良い結果ではないかと推察する。

4. 寝具の素材について

対象寝具7品目の種類別表地の素材を図1に示す。

種類別に見ると、夏用掛けぶとんは木綿繊維82.6%，次いで化学繊維11.0%。夏用敷ぶとんは木綿繊維97.1%，次いで化学繊維1.8%。マットレスは木綿繊維71.1%，次いで化学繊維19.7%。タオルケットは木綿繊維98.0%，化学繊維1.3%。シーツ・包布は木綿繊維87.9%，次いで化学繊維9.1%。

枕は木綿繊維94.5%，次いで化学繊維4.0%。わずかの差ではあるがいずれの寝具とも、圧倒的に木綿繊維が優位を示している。

図2に示す寝具の種類別、中味の材料について見ると、夏用掛けぶとん、夏用敷ぶとんのいずれも木綿わたを多く使用している。

夏用掛けぶとんでは木綿わた64.0%，化繊わた32.0%の順である。夏用敷ぶとんは木綿わた96.6%と大変優位を示している。

表3は、寝具の材料(中味)(1) マットレス、(2) 枕である。表に示すように、マットレスはウレタン53.5%，スポンジ42.3%の順である。

枕はそばがら36.8%，そばがらとパンヤの混用18.9%，パンヤ12.1%，そばがらと木綿わたの混用11.1%の順である。

睡眠中に枕は、大変重要な役割をする。発汗もするので頭を冷す点からも、植物繊維の材料を使用していることは大変望ましい事である。

表2-3 寝具の寸法(3)

形	寸法	種類	
		種類	枕(%)
幅	29以内(cm)		12.1
	30~34		16.6
	35~39		21.1
	40~44		21.1
	45~49		6.3
	50~54		6.7
	55~59		2.2
長さ	60以上		13.9
	29以内		4.2
	30~39		7.9
	40~49		25.5
	50~59		29.6
高さ	60~69		26.4
	70以上		6.4
	4以内		3.8
	5~9		37.6
	10~14		45.0
	15~19		9.8
	20以上		3.8

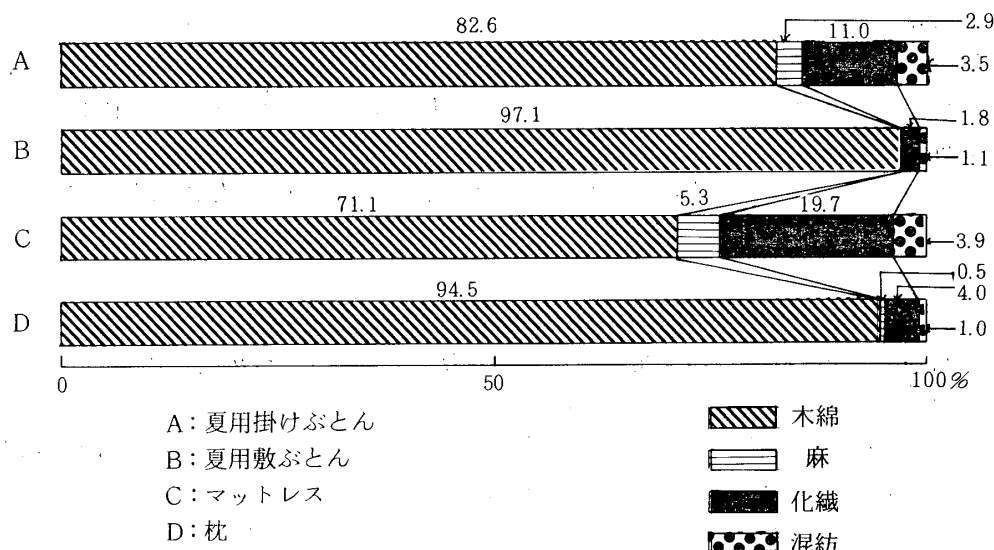


図1 寝具表地の素材

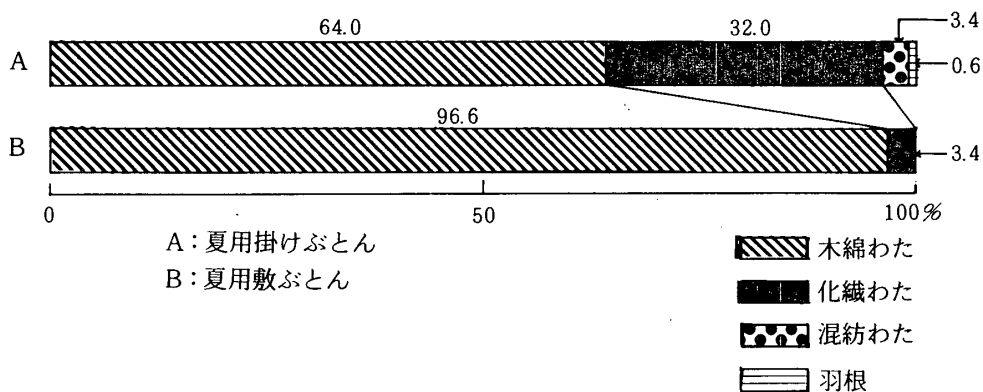


図2 寝具の材料 (中味)

表3 寝具の材料 (中味)

材料	種類 (%)
ウレタン	53.5
スポンジ	42.3
スプリング	4.2

①

材料	種類 (%)
そばがら	36.8
そばがら・パンヤ	18.9
パンヤ	12.1
そばがら・木綿わた	11.1
木綿わた	5.3
化繊わた	3.7
もみがら	3.2
もみがら・木綿わた	3.2
もみがら・パンヤ	2.6
羽根	2.6
そばがら・小豆	0.5

②

5. ねまきについて

ねまきの種類別所有状況を図3に示す。

学生を対象に調査をしたためか、きもの式ねまきはわずかであった。

パジャマ56.4%で半数以上を示し、次いでネグリジェ39.5%、きもの式ねまき4.1%とわずかである。ねまきの所有枚数については、大変ばらつきが多く、1枚～11枚の枚数をもっている。パジャマ、ネグリジェに関しては、平均2枚～3枚の利用者が多い。

ねまきの色彩・柄については、無地が多く、きもの式ねまきの場合78.0%、パジャマが82.2%、ネグリジェが82.6%で無地が大多数を示している。

色合別の傾向は、きもの式ねまき、パジャマ、ネグリジェともに、オレンジ60%と多く、次いで白20%、ピンク10%、ブルー10%の順であった。若い年齢のためか、明るい色合を好み、また女性らしさを表現する色合をあげている。更に安眠をさまたげないためにか、淡い色、暖色系の色合を使用している。

ねまきの洗濯方法では、洗濯機使用者が98%と圧倒的に多く、手洗はわずか2%である。夏期に調査したためか、洗濯回数は、毎日洗う67%、2日おきに洗う20%、3日おきに洗うが10%であり、一週間おきに洗うが0.3%と少数である。

6. 着装について

ねまきの着装状況についての調査結果は、夏期調査のためか、ねまきを直接肌に着る、直接肌に着ないの質問である。ねまきの下は何も着ない、直接肌に着る16%、何にかを着てねまきを着る84%と優位を示しているが、ねまきの着装の組み合わせは次の様である。

- ① パンティとねまきは55.2%
- ② パンティとブラジャーとねまきは37.1%

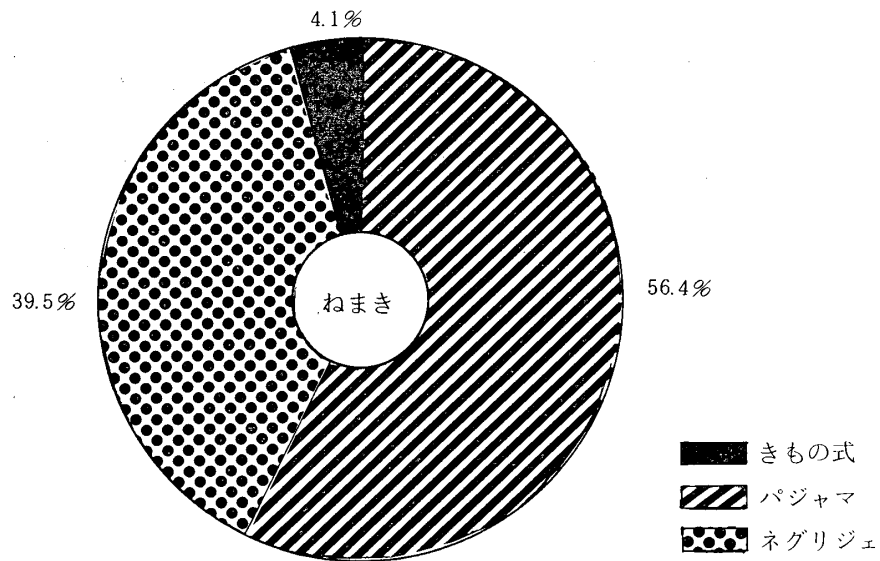


図3 ねまきの種類別所有状況

- ③ パンティとシャツとねまきは3.0%
- ④ パンティとスリッパ（ブラスリッパ）とねまきは2.2%
- ⑤ パンティとガードルとブラジャーとねまきは1.2%
- ⑥ パンティとジョッキングパンツとTシャツとねまきは0.9%
- ⑦ パンティとTシャツとねまきは0.4%

であった。

以上の様に寝具の着心地に関する要求について考察した。

結 論

寝具について、7種類の寝具を対象にして、要求度ならびに着心地の条件調査を行った。その結果次の様な結論が云える。

1. 寝具の着心地に関する群別要求度について、
 - 1) 寝具の着心地に関しては、着用者の性別、年齢によって前回の調査結果では、わずかではあるが差が見られたが、今回の調査は女子学生のみを対象にしたため影響がなかった。
 - 2) 前回の調査結果にくらべ、生活様式の違いと、ベッドの普及により、就寝状況がベッド様式の者が多くなった。
 - 3) 寝具の種類による群別要求度は異なり、夏用掛けぶとん、夏用敷ぶとん、マットレス、シーツ・包布、枕などは、C群の物理・化学的性能が要求され、主に実的な点をあげている。
 - 4) タオルケットについては、A群の心理的性能を高く要求しているが、夏用掛けぶとん、夏用敷ぶとん、マットレス、シーツ・包布、枕などの要求しているC群の物理・化学的性能もわずかに要求している。
 - 5) ねまきについては、A群の心理的性能を高く要求し、次いでB群のサイズ・縫製・形などの美的性能をも重視している。しかしC群の物理・化学的性能の実用性の要求は低い。
2. 着心地における着装について
 - 1) 素材は寝具の種類別に、木綿製品を好み多く使用している。寝具として感覚的に、触感を高

く要求している。

2) ねまきについては、実用性より、心理的また美的性能を要求している。

色・柄については、明るい女性らしい落着のある色を好み、柄ものより無地のものの方が要求度が高い。

3) ねまきの着装方法は、パンティとねまきの組み合わせが多い。

以上の結論を得た。本調査に当り協力いただいた学生諸姉に感謝の意を表します。

参 考 文 献

庄司他：織消科学9 着心地に関する調査研究（第1報）8-11（1968）

庄司他：織消科学9 着心地に関する調査研究（第2報）12-21（1968）

庄司他：織消科学5 着心地に関する調査研究（第3報）10-12（1969）

庄司他：織消科学5 着心地に関する調査研究（第4報）13-18（1969）

酒井：名古屋女子大学紀要第17号 寝具の着心地に関する調査研究 41-49（1972）